

研究指定校名 : 米子市立尚徳小学校

1. 学校の概要

学校名	米子市立尚徳小学校
学級数	11学級（うち特別支援学級：2学級）
児童生徒数	全児童数：205人（平成30年1月1日現在）
URL	http://www.torikyo.ed.jp/syotoku-e/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

【中学校区研究主題】豊かな人間関係を築き、主体的に学び合い高め合う子どもの育成
～連携を重視した魅力ある校区づくりをめざして～

【本校研究主題】 かかわり つながり 支え合い 共に伸びる子どもの育成
～「学び合い」のある授業づくりと絆づくり・居場所づくり～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

本校では、「心豊かでたくましく生きる『瞳輝く尚徳の子』の育成」という教育基本目標を掲げ、人権尊重の精神を基盤とした「ことばを大切に、優しい心・強い心・正しい心を育む尚徳小学校」を目指して学校づくりに取り組んでいる。この先子どもたちを取り巻く社会がどのように変化しても、たくましく生き抜くことができる力を身につけるために、学び合いの質を高め、児童ができる喜びを感じることに、自分の気持ちを伝え他人の気持ちが分かるコミュニケーション能力を養うこと、自分たちの問題を自分たちで解決する自治的能力を高めることが重要であると考える。

本校を含む尚徳中学校区は、平成24・25年度に、「魅力ある学校づくり調査研究事業」（国立教育政策研究所）、平成26・27年度には、「小中連携で取り組む授業改革ステップ・アップ事業」（鳥取県）の指定を受け、すべての児童・生徒を対象として、自尊感情を高めるための授業づくりや集団づくりを中心に、1中学校と3小学校（五千石・成実・尚徳）が連携しながら取り組んできた。研究指定は終わったが、この趣旨に基づき、平成28年度以降も中学校区の研究組織を立ち上げ、仲間づくりを基盤とした研究を推進してきた。これまで中学校区では、平成24年度から自尊感情アンケートを実施し、児童・生徒の実態把握に努めてきた。そのアンケート結果から「計画を立てて、進んで家庭学習をする」、「授業に主体的に取り組んでいる」という項目に課題があることが明らかになってきた。また、学習意欲や基礎学力の低さのため学びから逃げる児童・生徒もあり、自分に自信がもてず自尊感情の低下につながっていると考えられる。

そこで、中学校区として、「豊かな人間関係を築き、主体的に学び合い高め合う子どもの育成～連携を重視した魅力ある校区づくりをめざして～」という研究主題を設定し、さらに連携を深めながら人権教育の推進にあたった。

これを受け、本校では平成26年度は国語科、平成27・28年度は算数科を中心に、「学び合い」に重点をおいた授業づくりを行ってきた。本校は、「学び合い」を「自分の考えをもった子ども達が、互いに意見を交流（比較・共感・整理）しながら思考を重ねることで、新たな気づきやよりよい考え・方法を見つける学習活動」ととらえている。学習の中で互いの考えを伝え合う活動を行い、分からないことがあれば「教えて」と友だちに聞ける雰囲気づくりに努めてきた。その結果、それまでの一斉授業では学習に主体的に取り組めなかった児童が、安心してグループの中で話し合ったり、友だちの考えを聞いたりする姿が見られるようになり、分かる喜びを感じ、みんなで分かろうとする態度が身につくようになった。

しかし、鳥取県診断テストや全国学力・学習状況調査及び中学校区共通で行っている学力状況アンケート等を見ると、学力面では課題が多い。グループで学ぶことで理解したつもりになった

り、グループ学習に時間がかかり適用題や振り返りの時間が十分にとれなかったりすることが要因と考えられる。また、教科の学習を工夫改善するだけでは「学び合い」を成立させる上で重要なコミュニケーションの能力が十分に育っていかないという実態も見られ、学級や学校の雰囲気や人間関係など、意欲を高める集団づくりが大切であると考えた。さらに、単に友だちと関わりをもつという表面上のことだけでなく、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性、対立的問題に対しても双方にとってプラスとなる解決法を見出すことができるような問題解決技能等を教科以外の場面でも育てていく必要がある。

以上のことから、研究テーマを「かかわり つながり 支え合い 共に伸びる子どもの育成」と設定し、算数科以外の教科・領域でも「学び合い」のある授業づくりを行い、その基盤となる学校・学級における絆づくり・居場所づくりをめざした研究に取り組んでいきたいと考えた。

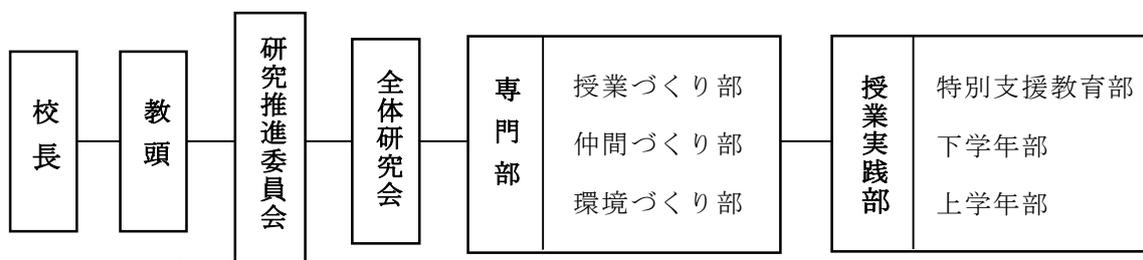
研究の仮説

【仮説 1】 児童が自ら解決したいと思う課題設定や興味を引く問題提示、児童の思考をゆさぶる発問の工夫、ペアやグループで学び合うための効果的な方法の工夫、適切な授業時間配分と振り返りの時間の確保等を行えば、児童が学び合いに意欲的に参加し、主体的に学習に取り組むことで、学力が向上するであろう。

【仮説 2】 学級や異年齢集団の中でよりよい関わりをもつ経験を重ね、児童が自ら参画・活動したり、問題を解決したりすることなどを通して、適切なコミュニケーション技能や問題解決技能、共感的に理解する能力を身につけ、自己有用感が高まり、実践的な行動につながる意欲や態度を育てることができよう。

【仮説 3】 学習規律や基本的生活習慣の定着及び校内掲示の充実等環境整備を図ることで、児童が安心して生活し、よりよい人間関係を築いていくことができよう。

3. 調査研究の推進体制



【関係協力機関】

- 鳥取県教育委員会 ○米子市教育委員会
- 米子市人権・同和教育推進協議会学校教育部会 ○尚徳中学校区教育推進協議会

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容・実施日程

I 授業づくり

- すべての教科の授業の流れを「とらえよう→考えよう→深めよう→まとめよう→ふり返ろう」に統一し、課題解決だけで終わることがないように適切な時間配分を考えた。
- 自分の学びを確かめたり、適用題を解いたりする「ふり返り」の時間の確保に努め、児童に満足感をもたせ、学力の定着を図るようにした。
- ICTの活用、拡大教材、具体物、場面絵等を活用して課題提示をしたり、前時のふり返りの中から本時のめあてを引き出したりすることで、児童自らが解決したいと思う課題設定を
- 「学び合い」の際、ホワイトボードや拡大ワークシート、「どこでもシート」などを使用することで思考過程を整理したり考えを可視化したりした。

- 知識構成型ジグソー法やギャラリートークなど友だちと関わりながら学びを深めた。
- 「思考をつなぐ聞き方・話し方」を意識して「学び合い」を進めた。
- どの児童にも達成感を感じられるような授業を目指して、「人権が尊重される授業づくりの視点」を作成し、教師が常に意識するようにした。

II 仲間づくり

- 仲間と協力し、気軽に自分たちの力で問題解決していく話し合い活動の手法の一つとしてクラス会議を取り入れ、毎月第1木曜日には全校一斉に行う時間を設けた。
- 児童会の組織を変更し、活性化を図った。
- 1年生から参加できる児童会を目指して、児童会総会の開催、クラス会議の活用による各学級の意見の提案、各委員会からの全校で行える活動の実施などを行った。
- たてわり班活動では、色別リーダーを決め、たてわり班対抗の全校遊びを取り入れたり、外掃除や給食などでも活動を行ったりした。
- 朝の会の前に、上学年・下学年で広場に集まり一緒に歌を歌い、一体感を持たせる工夫を行った。

III 環境づくり

- 学習規律の定着を図るために、学習時間の約束を「学習規律10ヶ条」として児童に提示した。
- 家庭での生活習慣を見直すことができるように、「生活アンケート」をもとに、「ノーメディアの日」や「家庭学習パワーアップ週間」を設定したり、「家庭学習のてびき」を活用して自主学習の充実を図ったりした。
- 校内掲示を活用し、児童が安心して生活できる環境づくりに努めた。
- 全校でメッセージを送り合い、廊下や教室に掲示したり、児童から募集した「ふわふわ言葉」を階段の垂直面に掲示したりした。

時 期	内 容	備 考
4月 5日	第1回拡大研究推進委員会（研究の方向・仮説・内容の協議）	10人
	第1回全体研究会（研究内容の協議・決定）	17人
4月 7日	第1回専門部会（研究の具体化）	15人
4月 18日	第1回人権教育研究推進事業連絡協議会	1人
4月 26日	授業実践部会（研究授業の日程・内容決定）	14人
5月 10日	第1回尚徳中学校区教育推進協議会（校区の取組）	17人
5月 17日	第2回全体研究会（中学校区の取組の共通理解）	17人
	第2回専門部会（具体的な取組）	15人
5月 18日	第1回Q-U調査実施、第1回自尊感情アンケート実施	
5月 19日	授業実践部会（部会研の指導案検討・取組の推進）	上学年部6人
5月 31日	第3回全体研究会（振り返りと今後の取組の重点）	17人
6月 2日	第4回全体授業研究会 5-1 道徳（授業実践・研究協議） 指導助言：加茂小 坂本教頭、市教委 乗本指導主事、 県教委 西垣指導主事	17人
6月 6日	生活アンケート実施	
6月 7日	第3回専門部会（具体的な取組）	15人
6月 15日	第5回全体授業研究会 1-2 算数（授業実践・研究協議） 指導助言：市教委 乗本指導主事、県教委 山本指導主事	17人
7月 19日	第2回研究推進委員会（研究紀要の内容・分担）	7人

7月26日	第6回全体研究会（研究紀要作成・研究会当日の日程）	16人
	第7回全体研究会（講義・演習）	16人
	「ユニバーサルデザインの授業」講師：鳥医大臨床心理士 大羽先生	
7月27日	尚徳中学校校区担任連絡会（人権教育年間指導計画見直し・情報交換）	学級担任 11人
	第2回尚徳中学校校区教育推進協議会（校区の取組）	16人
8月2日	第8回全体研究会（研究紀要作成の確認）	16人
	第4回専門部会（振り返りと2学期の取組・研究紀要の分担作成）	14人
8月7日	第9回全体研究会（2学期の取組の提案・確認）	16人
	第5回専門部会（研究紀要の作成）	14人
8月23日	第10回全体研究会（各種研修会報告）	16人
8月28日	第1回学習状況アンケート実施	
9月28日	第2回Q-U調査実施、第2回自尊感情アンケート実施	
10月18日	授業実践部会（分科会発表準備）	13人
10月25日	授業実践部会（研究会の指導案検討）	13人
11月10日	研究紀要印刷・完成	95冊印刷
11月16日	第11回全体研究会（分科会発表確認）	17人
11月17日	研究紀要・指導案配布	配布先：市内小学校 参加者、教育委員会 関係諸機関
11月20日	第12回全体研究会（分科会リハーサル・打ち合わせ）	17人
11月29日	米子市中学校区人権教育研究発表会	
12月2日	第69回全国人権・同和教育研究大会（松江）参加	3人
12月15日	第2回学習状況アンケート実施	14人
12月20日	第6回専門部会（振り返りと3学期の取組）	
1月11日・12日	鳥取県診断テスト（国語・算数）	
1月16日	第3回自尊感情アンケート	
1月18日	米子市人権・同和教育研究集会（実践発表）	2人
2月7日	第7回専門部会・授業実践部会（研究のまとめ）	14人
2月13日	第2回人権教育研究推進事業連絡協議会	1人
2月22日	第3回研究推進委員会（来年度の研究内容の検討）	7人

（2）調査研究の成果と課題

【各部における具体的な取組の成果と課題】

I 授業づくり

- 授業の流れを統一したり、課題提示・設定の工夫により、素早く課題把握をしたりしたことで、自分の学びを確かめたり、適用題を解いたりするためのふり返りの時間の確保に役立った。しかし、十分な教材研究の時間がとれず、ふり返りの時間を十分に取れないときもあった。単元全体を見通して軽重をつけることが必要だと感じた。
- ノートに自分の考えを書くことにより思考過程を整理し、筋道を立てて考えようとする児童が増えた。ペア学習やグループ学習で、ノートを見ながら互いの考えを比較することもできた。道徳では、ノートやファイルに自分の考えや大事だと思うこと書き残すことにより、授業での学びをふり返って生活に生かす児童も見られるようになった。
- 「学び合い」の際、ホワイトボードや拡大ワークシート、「どこでもシート」などを使用することで思考過程を整理したり考えを可視化したりすることができ、全体の場で互いの考えを比較・検討するのに効果的であった。また、知識構成型ジグソー法やギャラリートークなど友だちと関わりながら学びを深めていくことができる手法も有効であった。
- 教師が「思考をつなぐ聞き方・話し方」を意識して「学び合い」を進めようとしたことで、友

だちの意見をしっかりと聞いたり、友だちの意見につなげて自分の意見を言おうとしたりする児童が少しずつ増えてきた。しかし、まだ十分とは言えないので、「学び合い」が深まるようなコミュニケーションの力を引き続き育てていきたい。

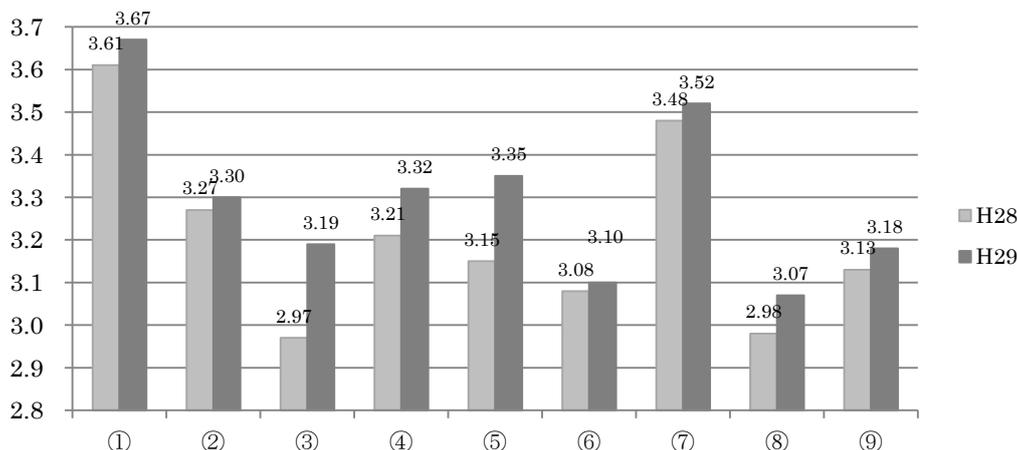
II 仲間づくり

- クラス会議によって、自治能力が育ちつつある。全員が自分の考えを伝える機会が増え、一人一人の考えに耳を傾け、受け止めようとする雰囲気が広がり、委員会活動や縦割り班活動など他の場面でも生かされた。全校一斉に行う時間を設けて足並みをそろえたことで、みんなが話し合いに参加する機会として定着した。しかし、議題については、担任の裁量によるところが大きく、児童が生活の中で課題を見つけていこうとする態度を育てる必要がある。
- 児童会の組織を変えたことで、児童会活動が活性化し、自分たちの手で学校をよくしたいという意識が広がった。その中で、児童会会長や各委員長など高学年がリーダーとして活躍する機会が増え、下級生のモデルとなるよい姿を見せることができた。
- 児童会を中心に学校スローガンや児童会宣言を作成し、毎朝唱えることで、自分たちの目指す姿を意識しながら生活しようとする姿が見られた。しかし、まだまだ行動としては不十分などところがあるので、児童自ら学校の実態に目を向け、主体的に取り組む活動ができるようにしたい。
- たてわり班活動により各班の仲間意識が生まれ、6年生を中心にたてわり班をまとめようとする意識が高まった。しかし、6年生に頼る部分が大きく、各学年の役割を自覚させた活動を行う必要がある。

III 環境づくり

- 学習規律を学校全体でそろえることで、教師も児童も同じ方向を向いて取り組むことができ、効果を上げることができた。
- 校内掲示を活用し児童が安心して生活できる環境づくりに努め、全校でメッセージを送り合い、廊下や教室に掲示したり、児童から募集した「ふわふわ言葉」を階段の垂直面に掲示したりしたことで、友だちへの感謝の気持ちや頑張りを称賛する具体的な言葉をたくさん見ることができ、上級生と下級生のつながり、同級生同士のつながりが広がっていることが実感できた。
- 基本的な生活習慣の見直しにより、メディアコントロールの意識が芽生え、特に高学年のメディア接触の時間が昨年度より減少し、学習時間が増えてきた。また、朝余裕を持って起床し、朝の準備をすることができている児童が増えてきた。しかし、就寝時刻については、学年が上がるにつれ、遅くなる傾向がある。また、保護者の協力が得られない家庭は難しい面もあり、家庭を巻き込むもう一歩進めた取組が必要である。

【自尊感情アンケート・学習状況アンケート結果】



- ① みんなで何かをするのは楽しい。
- ② 周りの人の気持ちを考えて行動している。
- ③ 自分の思ったことを相手にはっきりということが出来る。
- ④ 授業がよく分かる。
- ⑤ 自分から進んで授業に取り組んでいる。
- ⑥ 計画を立て、自分から進んで家庭学習に取り組んでいる。
- ⑦ 目標に向かって努力していることがある。
- ⑧ 自分は誰かの役に立っていると思う。
- ⑨ 今の自分が好きだ。

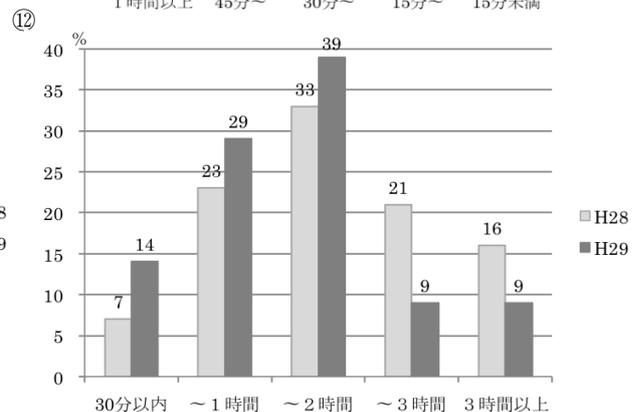
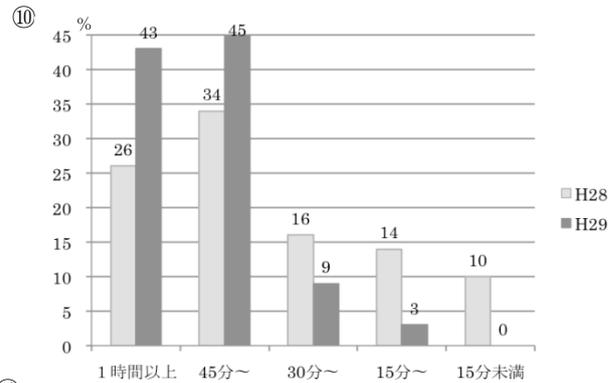
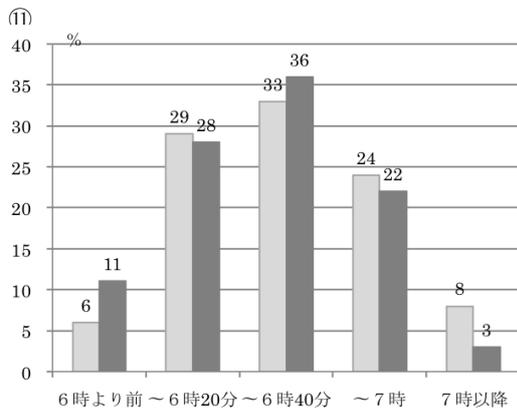
【生活アンケート結果】

⑩ 平日にどれくらい勉強をしますか。(高学年)

⑪ 平日は朝何時に起きますか。

⑫ 平日にどれくらいテレビを見ますか。

(ビデオ, ゲーム含む)



学習の楽しさを感じ、自分から進んで授業に取り組む児童が特に増えており(結果③⑤⑦)、そのことが学習内容の理解(結果④)につながったと思われる。また、高学年を中心に学習時間が増加している(結果⑥⑩)が、計画的に家庭学習に取り組んでいる児童が少なく(結果⑥)、学習内容を定着させるためにも家庭学習には課題が残る。

自分の意見を話すことができる児童が大幅に増えている(結果③)のは、クラス会議の成果が大きいのと思われる。また、児童会や縦割り活動を中心とした取組や学級の間関係づくりにより、みんなで活動することの楽しさを感じ、みんなのために頑張ろうとする気持ちが育ってきている。(結果①②⑧)しかし、自己有用感は全体の中では数値が低く(結果⑧)、もっと積極的に褒め、一人一人を認めていく必要を感じた。また、メディア接触の時間が減少(結果⑫)してきており、家庭での生活習慣も改善してきている(結果⑪)ことが窺える。

本研究の様々な実践が自尊感情を高めることにつながったと思われる。(結果⑨)実践を振り返り、改善を加え、有効な取組は継続していきたい。そして、主体的に学び合い高め合う児童の育成を今後も図っていきたい。